

令和5年度 第4回播磨姫路圏域地域医療構想調整会議（中播磨地域部会）（非公開）
開催結果報告

圏域名	播磨姫路圏域（中播磨地域）
日時	令和6年2月27日（火）13：30～15：30
場所	姫路市医師会館 大ホール
部会長	姫路市医師会長 石橋 悦次
出席者	別添名簿のとおり
議事次第 概要	<p>(1) 信原病院の病床減床に伴う有床診療所化にかかる事前協議</p> <p>(2) 「兵庫県保健医療計画改定」</p> <p>(3) 「紹介受診重点医療機関」</p> <p>(4) 「地域医療構想について」</p> <p>①令和5年度中播磨地域 病院・有床診療所アンケート結果</p> <p>②「公立病院経営強化プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立はりま姫路総合医療センター ・公立神崎総合病院 <p>③「中播磨医療圏のDPC データ分析報告」</p> <p>神戸大学大学院 医学研究科 地域社会医学・健康科学分野 AI・デジタルヘルス科学分野 特命准教授 兵庫県地域医療構想アドバイザー 姉崎 久敬 氏</p> <p>④協議・意見交換</p> <p>※中播磨地域健康福祉推進協議会（医療部会）と同時開催 （（1）については、医療部会における議題）</p>
内容	<p>(2) 「兵庫県保健医療計画改定」</p> <p>【質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準病床数の算出方法が見直されたため、令和6年4月以降に基準病床が既存病床を上回る地域がある。新たな基準病床数を算出するにあたり、今後の自然な人工減なども踏まえているのか。 <p>→（回答：医務課）</p> <p>今回の基準病床数見直しでは、地域で必要な病床数について、全国一律で示している算定式で算出しており、やむを得ないところではある。</p> <p>但し、基準病床数が増えたことにより、従来から推進してきた地域医療構想を中心とした圏域での医療提供体制の構築の考え方を大きく変更することはない。あくまで地域医療構想上の必要病床数を基本とし、新たに病床配分する際には、不足する医療機能を増やすことを前提と考えていく。</p>

(3) 「紹介受診重点医療機関」

令和5年度外来機能報告にて各医療機関が報告した外来医療の実施状況から、医療資源を重点的に活用する外来に関する基準や、紹介受診重点医療機関となる意向の有無を確認・整理し、紹介受診重点医療機関となる医療機関を確認。

【結果】

当調整会議において、姫路赤十字病院、県立はりま姫路総合医療センター、姫路医療センター、ツカザキ病院については引き続き、姫路聖マリア病院については新たに、紹介受診重点医療機関となることを確認・承認した（令和6年3月1日公表予定）。

(4) 「地域医療構想について」

①令和5年度中播磨地域 病院・有床診療所アンケート結果

事務局より、昨年度に引き続き実施した中播磨地域の医療機関アンケート結果を説明。

②「公立病院経営強化プラン」

- ・県立はりま姫路総合医療センター
- ・公立神崎総合病院

中播磨地域の公立病院から、公立病院経営強化プラン（案）の概要について説明。

【質問】

- ・公立神崎総合病院について、新型コロナウイルス感染症の影響が少ないとみられる令和5年度の収益見込みはどのような状況か。また、在宅医療に取り組むにあたり、訪問看護ステーションとの連携などについて、どのように考えているか。

→（回答：公立神崎総合病院）

令和5年度についても、新型コロナウイルス感染症患者の入院による患者数増加の影響もあり、経営の数値上は悪い結果ではない。しかし、経営状況について根本的な解決には至っていないので、改善が必要と考える。

在宅医療に取り組むにあたり、同一敷地内にある訪問看護ステーションとの連携を視野にはいれているが、具体的には検討できていない。

③「中播磨医療圏のDPCデータ分析報告」

神戸大学大学院医学研究科 AI・デジタルヘルス科学分野 特命准教授であり、兵庫県地域医療構想アドバイザー 姉崎久敬氏より、中播磨地域のDPC協力病院のデータから、症例数の多い8疾患について、完結率、患者流入状況などの特徴、医療効率からみた課題について説明。

【質問】

- ・後方病院に患者を送れば急性期病院の入院が減るであろうという考察について、急性期病院以外は医師が不足しがちであったり、患者

	<p>が高齢者であるため転院させられない事情もある。DPC データ分析では、医師の偏在等も分析できるのか。患者や家族の思いもあり、DPC データ分析からだけでは解決できない難しい部分もあると考える。</p> <p>→ (回答：姉崎 地域医療構想アドバイザー)</p> <p>病院ごとの医師数や、ベッド利用率を加味して、ある程度は分析できると考える。安心して転院できるシステムづくりも必要と考える。</p> <p>④協議・意見交換 特になし</p>
<p>協議が調った 事項</p>	<p>国から示される 2040 年に向けた地域医療構想の方向性も視野にいれ、今後も DPC データ分析結果から播磨姫路圏域での現状や課題を把握し、地域の医療体制について協議していく。</p>
<p>次回以降の予定</p>	<p>令和 6 年 7 月頃 播磨姫路圏域地域医療構想調整会議 (中播磨地域部会) (中播磨地域健康福祉推進協議会医療部会と合同開催)</p>